

関西大学外国語教育研究機構

データブック

2004（平成16）年10月～2009（平成21）年3月

関西大学外国語教育研究機構 自己点検・評価委員会

< 執行部および各種委員会記録一覧 >

1 外国語教育研究機構執行部

期間	16. 10. 1～18. 9. 30	18. 10. 1～20. 9. 30	20. 10. 1～21. 3. 31
役職	機構長 宇佐見 太市 機構長代理 山本 英一 機構主任 菊地 敦子 (～17. 9. 30) A・S・ギブズ (17. 10. 1～) 高橋 秀彰	機構長 宇佐見 太市 副機構長 竹内 理 山本 英一 教学主任 菊地 敦子 (～19. 9. 30) 吉田 信介 (19. 10. 1～) 高橋 秀彰	機構長 宇佐見 太市 副機構長 竹内 理 山本 英一 教学主任 西川 和男 吉田 信介
事務担当	市原 憲厚 (～17. 3. 31) 中島 弘至 (17. 4. 1～18. 7. 31) 金 東 澄	宮下 澄人 (20. 4. 1～) 金 東 澄	宮下 澄人 金 東 澄

2 各種委員会

委員会	16年度 (16. 10. 1～)	17年度	18年度	19年度	20年度
拡大執行部 会議	北村 裕 宇佐見 太市 熊谷 明泰 菊地 敦子 齋藤 栄二 山本 英一 高橋 寿夫 河合 忠仁 平田 渡 西川 和男	—	宇佐見 太市 竹内 理 山本 英一 菊地 敦子 高橋 秀彰 八島 智子 山根 繁 杉谷 眞佐子 菊地 歌子 西川 和男 福井 七子	宇佐見 太市 竹内 理 山本 英一 菊地 敦子 (～19. 9. 30) 吉田 信介 (19. 10. 1～) 高橋 秀彰 八島 智子 山根 繁 菊地 歌子 西川 和男 福井 七子	宇佐見 太市 竹内 理 山本 英一 西川 和男 吉田 信介 吉澤 清美 八島 智子 山根 繁 菊地 歌子 (20. 10. 1～) 平田 渡 熊谷 明泰 望月 通子 (20. 10. 1～)
準備執行部 会議	—	—	—	—	宇佐見 太市 竹内 理 山本 英一 吉田 信介 西川 和男 奥田 隆一 杉谷 眞佐子 高橋 秀彰 菊地 歌子 平田 渡 山崎 直樹
人事 委員会	北村 裕 宇佐見 太市 河合 忠仁 (～17. 1. 11) 八島 智子 (17. 1. 12～) 杉谷 眞佐子 菊地 歌子 近藤 昌夫 平田 渡 西川 和男 熊谷 明泰 望月 通子 竹内 理	宇佐見 太市 山本 英一 石原 敏子 杉谷 眞佐子 菊地 歌子 近藤 昌夫 平田 渡 西川 和男 熊谷 明泰 望月 通子 竹内 理	宇佐見 太市 竹内 理 山本 英一 石原 敏子 杉谷 眞佐子 菊地 歌子 近藤 昌夫 平田 渡 西川 和男 熊谷 明泰 福井 七子 八島 智子	宇佐見 太市 竹内 理 山本 英一 吉田 信介 高橋 秀彰 菊地 歌子 近藤 昌夫 平田 渡 西川 和男 高 明 均 福井 七子 八島 智子	宇佐見 太市 竹内 理 山本 英一 吉田 信介 高橋 秀彰 菊地 歌子 近藤 昌夫 平田 渡 西川 和男 熊谷 明泰 望月 通子 八島 智子

委員会	16年度 (16.10.1～)	17年度	18年度	19年度	20年度
機構学務 委員会 (18.10.1～)	—	—	山本 英一 静 哲人 吉田 信介 柏木貴久子 平嶋 一美 近藤 昌夫 鼓 宗 玄 幸子 熊谷 明泰 福井 七子	山本 英一 和田 葉子 吉田 信介 柏木貴久子 平嶋 里珂 近藤 昌夫 鼓 宗 玄 幸子 高明 均 福井 七子	山本 英一 奥田 信介 和田 葉子 柏木貴久子 平嶋 里珂 近藤 昌夫 鼓 宗 玄 幸子 高明 均 望月 通子
教務委員会 (18.9.30まで)	宇佐見 太市 (～16.9.30) 山本 英一 (16.10.1～) 八島 智子 名部井敏代 諸沢 巖 平嶋 一美 近藤 昌夫 鼓 宗 沈 国威 熊谷 明泰 福井 七子	山本 英一 静 哲人 名部井敏代 柏木貴久子 平嶋 一美 近藤 昌夫 鼓 宗 沈 国威 熊谷 明泰 福井 七子	山本 英一 静 哲人 吉田 信介 柏木貴久子 平嶋 一美 近藤 昌夫 鼓 宗 玄 幸子 熊谷 明泰 福井 七子	—	—
研究科学務 委員会 (18.10.1～)	—	—	竹内 理 菊地 敦子 八島 智子 山根 繁 杉谷 眞佐子 菊地 歌子 西川 和男 福井 七子	竹内 理 菊地 敦子 八島 智子 山根 繁 高橋 秀彰 菊地 歌子 西川 和男 福井 七子	竹内 理 高橋 秀彰 八島 智子 山根 繁 菊地 歌子 平田 渡 西川 和男 熊谷 明泰
研究・メディア 委員会 (18.10.1より 教材・マルチメディア 委員会および 図書・研究委員 会を統合)	—	—	高橋 秀彰 吉田 信介 和田 葉子 柏木 貴久子 平嶋 一美 近藤 昌夫 鼓 宗	高橋 秀彰 吉田 信介 和田 葉子 柏木 貴久子 平嶋 里珂 近藤 昌夫 鼓 宗	吉田 信介 和田 葉子 柏木 貴久子 (～20.7.22) 奥田 隆一 (20.7.23～) 平嶋 里珂 近藤 昌夫 鼓 宗 山崎 直樹
教材・マルチメディア 委員会 (18.9.30まで)	高橋 秀彰 カイト由利子 李 春喜 (～16.11.23) 菊地 敦子 (16.11.24～) A・J・ハント 近藤 昌夫 平嶋 一美 沈 国威	高橋 秀彰 カイト由利子 菊地 敦子 A・J・ハント 近藤 昌夫 平嶋 一美 沈 国威	高橋 秀彰 カイト由利子 菊地 敦子 A・J・ハント 近藤 昌夫 平嶋 一美 鼓 宗	—	—
図書・研究 委員会 (18.9.30まで)	高橋 寿夫 八島 智子 栗原千恵子 名部井敏代 (～16.11.23) 李 春喜 (16.11.24～) 杉谷 眞佐子 近藤 昌夫 沈 国威 福井 七子	高橋 寿夫 李 春喜 名部井敏代 杉谷 眞佐子 近藤 昌夫 沈 国威 福井 七子	熊谷 明泰 李 春喜 名部井敏代 杉谷 眞佐子 近藤 昌夫 沈 国威 (～18.4.25) 福井 七子	—	—

- ・ 英語部会 21 名 (21.3.31 現在)
- ・ ヨーロッパ系言語部会 8 名 (21.3.31 現在)
- ・ アジア系言語部会 8 名 (21.3.31 現在)

3 会議開催回数

	16 年度 (16.10.1～)	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度
教授会	10	19	20	22	23
教授会準備委員会	—	—	—	—	8
執行部（拡大）会議	8	19	18	26	29
準備執行部会議	—	—	—	—	6
人事委員会	7	14	14	12	15
機構学務委員会(18.10.1～)	—	—	3	13	13
教務委員会(18.9.30まで)	9	21	7	—	—
研究科学務委員会(18.10.1～)	—	—	3	16	16
研究・メディア委員会 (18.10.1より教材・マルチメディア委員会および図書・研究委員会を統合)	—	—	3	7	7
教材・マルチメディア委員会(18.9.30まで)	2	9	3	—	—
図書・研究委員会(18.9.30まで)	3	6	2	—	—

〈 現職教員一覧 〉

氏 名	資 格
石原 敏子	教授
宇佐見 太市	教授
奥田 隆一	教授
カイト由利子	教授
菊地 敦子	教授
菊地 歌子	教授
北村 裕	教授
A. S. ギブズ	教授
熊谷 明泰	教授
玄 幸子	教授
高明 均	教授
近藤 昌夫	教授
静 哲人	教授
G. S. ジョンソン	教授
沈 国威	教授
杉谷眞佐子	教授
高橋 寿夫	教授
高橋 秀彰	教授
竹内 理	教授
田尻 悟郎	教授
西川 和男	教授
A. J. ハント	教授
平田 渡	教授
福井 七子	教授
望月 通子	教授
八島 智子	教授
山崎 直樹	教授
山根 繁	教授
山本 英一	教授
吉澤 清美	教授
吉田 信介	教授
和田 葉子	教授
柏木貴久子	准教授
鼓 宗	准教授
名部井敏代	准教授
平嶋 里珂	准教授
李 春喜	准教授

〈 名誉教授一覧 〉

氏 名
D・F・シヤウ ^グ エッカー
鳥井 克之
中島 巖
諸沢 巖
植松 健郎
安川 昱

〈 退職教員一覧 〉

氏名	退職年月日
鳥井克之	17. 3. 31付退職
諸澤 巖	17. 3. 31付退職
中島 巖	17. 3. 31付退職
栗原千恵子	17. 3. 31付退職
齋藤栄二	19. 3. 31付退職
D・F・シヤウ ^グ エッカー	19. 3. 31付退職
河合忠仁	20. 3. 31付退職
カイト由利子	21. 3. 31国際部へ移籍

〈FDセミナー〉

開催日	場所	テーマ	講師	参加者数
16.11.6	岩崎記念館 2階会議室	The Importance of Reading in a Foreign Language Curriculum: An Issue of Balance ー外国語教育カリキュラムにおけるリーディングの位置づけ:語彙修得との関係ー	ノートルダム清心女子大学助教授 Dr.Robert Waring	20名
17.9.11	尚文館 501号室	『ヨーロッパ言語ポートフォリオ』と複数外国語教育の促進	ノルトンライン・ヴェストファーレン州立学校教育研究所外国語教育部門長 Dr.ベアーテ・ヘルビッシェロイター	60名
17.11.12	岩崎記念館 多目的ホール 2	「クリックして読むコース」の共通化に向けて	関西大学非常勤講師 和久 豊 関西大学外国語教育研究機構教授 山根 繁	9名
17.12.12	尚文館 マルチメディア AV大教室	「外国語教育におけるエンターテイメント性の位置づけ」	慶應義塾大学 SFC 助教授 NHK テレビフランス語講座講師 国枝 孝弘	190名
17.12.17	岩崎記念館 CALL-1教室	明日から使える CEAS !	関西中央高校英語科教諭 深田 将揮 夙川学院短期大学非常勤講師 住 政二郎	12名
18.6.12	岩崎記念館 多目的ホール 1	Content-based Foreign Language Instruction: Models and Methods 外国語教育を行うためのコンテストベースアプローチの方法について	カナダ McGill 大学教授 Dr.Fred Genesee	50名
18.7.29	第1学舎 3号館 5F AV-B教室	コラボレーションからパフォーマンスへー初習外国語学習の動機形成と演出技能の相関性ー	電子楽器テルミン演奏者 竹内テルミン研究院代表 竹内 正実	40名
19.12.16	関西大学 第1学舎 3号館 AV-B教室	アニメーションとコミュニケーションー初修外国語学習の動機形成のために	アニメーション作家 米正 万也	100名

〈 視聴覚教育—LL 特別講義〉

開催日	場 所	テーマ	講 師	参加者数
16.11.16	第1学舎3号館 AV-B 教室	日本と中国の言語文化比較	作家 毛 丹青	92名
16.12.2	第1学舎3号館 AV-B 教室	映画の中の色使いと演出	大阪アリアンス・フランスーズ デレクター Eric Galmard	110名
16.12.16	岩崎記念館 多目的ホール1	UK Employment Practices —日英関係、文化、英国および 英国企業での就職に関して—	英国総領事 在大阪英国総領事館 Neil Hook	125名
16.12.20	第1学舎3号館 AV-B 教室	EUの東方拡大とドイツ —日本企業の展開	追手門学院大学助教授 ロルフ・シュルンツエ	50名
17.6.6	第1学舎3号館 AV-B 教室	John Steinbeck's Place within American Literature	ブリガムヤング大学教授 Stephen George	70名
17.6.16	第3学舎4号館 4302 教室	Rencontre avec Janick フランス語で世界を広げよう！	共立女子大学教授 Janick Magne	224名
17.6.18	第1学舎3号館 AV-B 教室	海外における韓国語〔朝鮮語〕 教育	駐日本大韓民国大使館 千葉韓国教育院院長 金 相敏	73名
17.6.25	第1学舎3号館 AV-B 教室	シベリアの人々と暮らし	関西大学非常勤講師 ガヴリノフ・アリョーナ	36名
17.11.17	第1学舎3号館 AV-B 教室	中日 V+N 動賓客結構二字詩的 比較	北京外国語大学教授 朱 京偉	36名
17.11.18	第1学舎3号館 AV-B 教室	走向共和—最新の中国テレビドラマ	佛教大学助教授 李 冬木	54名
17.11.24	第1学舎3号館 AV-B 教室	20世紀ドイツ文学の異文化間性	ケルン大学教授 Hans Esselborn	12名
17.12.10	第1学舎3号館 AV-B 教室	日本におけるドイツ年2005/2006 と日独交流	ドイツ大使館一等書記官 Wolfgang Brenn	18名
18.6.3	第1学舎3号館 AV-B 教室	原作者とともに『チェブラーシカ そして ロシアのこどもたち』	作家 エドゥアルド・ウスパンスキー	119名
18.6.20	尚文館 マルチメディア AV 大教室	The Japanese and U.S. News Media—A Personal Comparison	ジャーナリスト Brian Covert	168名
18.6.27	児島惟謙館 第2会議室	ドラマを使った外国語習得法	ミュージシャン・大学講師 ステイヴ・ムラー	54名
18.10.19	第2学舎1号館 LL-1 教室	Webを利用したドイツ語自主学習 の多様な世界	広島大学助教授 岩崎克己	55名
18.11.17	第1学舎3号館 AV-B 教室	現代中国の言語と意識—最近の 中国映画にみる「文革」	仏教大学助教授 李 冬木	80名
19.12.15	第1学舎3号館 AV-A 教室	ロシアのクリスマス	大阪乙女文楽座座員 クセーニャ・ガラヴィナ	70名
20.12.14	第1学舎4号館 D101 教室	ロシアの玩具の不思議な世界	関西大学非常勤講師 キリーロフ・エレーナ	30名

〈 紀要執筆者一覧 〉

【創刊号】2001年3月発行

北 村 裕	英語	研究紀要発刊によせて
河 合 忠 仁	英語	日本の明確な英語教育政策の必要性
KIKUCHI Atsuko	英語	Grammaticalization, Renewal and Source Meaning
八 島 智 子	英語	「国際的志向性」と英語学習モチベーション
菊 地 歌 子	ヨーロッパ	フランス語のリズムグループはアクセントの基本単位か？
鳥 井 克 之	アジア	中国語の語素と単語<下> -中国語教学文法の再構築を目指して-
石 原 敏 子	英語	文学と音楽の幸せなセッション
織 田 稔	英語	外国語教育研究機構の設立まで

【第2号】2001年9月発行

織 田 稔	英語	個の標識としての英語不定冠詞
Morris J. Augustine	英語	Up The Golden Staircase-Five Steps Leading Foreign Language Students to Full Competence in the Use of E-mail in Their Target Language-
李 春 喜	英語	三人称過去形の語りの構造について-Henry Jamesの "The Bench of Desolation"を中心に-
望 月 通 子 ・ 船 城 道 雄	アジア	日英語における語順の対照的研究 -語順の認知言語学的アプローチ-
Robert C. Gardner	英語	Integrative Motivation and Second Language Learning: Practical Issues

【第3号】2002年3月発行

鼓 宗	ヨーロッパ	メキシコにおける前衛主義の誕生 ~エストリデンティスモと マヌエル・マブレス・アルセをめぐって~
石 原 敏 子	英語	エメ・セゼールとパブロ・ピカソ： Lost Bodyにおける自然の力
Atsuko Kikuchi, Graeme Todd, Kelli Walker, James G. Wong	英語	Communicative Behavior of Japanese Students of English in an Interview Setting
Gabriele Kasper, Yuriko Kite	英語	Pragmatics in a College-level EFL Curriculum
李 春 喜	英語	マイ・フレンド・ビンアム
カイト 由利子・沈 国威・杉谷 眞佐子		外国語学習に関する意識調査 -学生による質問票調査から

【第4号】2002年12月発行

齋藤 栄二	英語	英語教育改革試案
相原 茂	アジア	新時代の中国語教育
Jürgen Lenzko	ヨーロッパ	Sprachpolitik in Europa-Mehrsprachigkeit -Referenzrahmen-"Sprachportfolio"
Géry d'Ydewalle	英語	Foreign-Language Acquisition by Watching Subtitled Television Programs
Rod Ellis	英語	The Methodology of Task-based Teaching

【第5号】2003年3月発行

鳥井 克之	アジア	再論 中国語の統語成分について (上) —中国語教学文法の再構築を目指して—
Chieko Kuribara	英語	Subjects and Verbal Inflections in SLA: In Defence of "Full Transfer/Limited Access" Model
Kiyomi Yoshizawa	英語	Designing a task-based syllabus
平嶋 一美	ヨーロッパ	フランス語動詞事象の意味分類に関する考察
鼓 宗	ヨーロッパ	メキシコにおける前衛主義
八島 智子	英語	第二言語コミュニケーションと情意要因 「言語使用不安」と「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」についての考察

【第6号】2003年10月発行

A. Stephen Gibbs	英語	An Effective Way of Teaching the Expression of Future Matters in English: Part One: Objective Uses of Simple Future Tenses
Thomas Delaney, Christopher Hellman, David Jones, Atsuko Kikuchi, Graeme Todd, K. J.	英語	Directional Control in L1 and L2 Interview Situations
高橋 寿夫	英語	授業の改善に向けて —グループ・ワークによるリーディング指導—
Detlev Schauwecker	ヨーロッパ	Ein barockes Jesuitenspiel ueber den 'Christenfuersten' Protasius von Aryma (FolgeIII) Arima Harunobu 有馬晴信(1561?-1612)
鳥井 克之	アジア	再論 中国語の統語成分について (下) —中国語教学文法の再構築を目指して—
Lee Haruki	英語	Discourse Type and the Three Levels of Meaning Revisited
石原 敏子	英語	主人公は虫たち: Joyful Noise: Poems for Two Voices

【第7号】2004年3月発行

Chieko Kuribara	英語	The Identity of Pre-verbal Noun Phrases in Japanese Learner's English
望月 通子・宇佐見 太市・河合 忠仁 北村 裕・冬木 正彦・山本 英一 Hart, R. S.	英語	マルチメディアを利用した 外国語教育と情報ネットワークの展開
Detlev Schauwecker	ヨーロッパ	Ein barockes Jesuitenspiel ueber den 'Christenfuersten' Protasius von Aryma (FolgeIV) Arima Harunobu 有馬晴信(1561?-1612)
鳥井 克之	アジア	再論 中国語の単文について (上) —新しい中国語教学文法の再構築を目指して—
Theo Hermann		Was ist eigentlich Sprachpsychologie?

【第8号】2004年10月発行

高橋 寿夫	英語	「英語が使える日本人の育成のための戦略構想」 に関する一考察
Lee Haruki	ヨーロッパ	Introduction to the Semiotic Analysis of Narrative by the Paris School of Semiotics
Detlev Schauwecker	ヨーロッパ	Ein Jesuitenspiel ueber Protasius von Aryma, Arima Harunobu(有馬 晴信) - Folge V : Der sechste Finger des Louis Frois an der Hand des "Tyrannen" Toyotomi Hideyoshi
鼓 宗	ヨーロッパ	ビセンテ・ウイドプロと1910年代のスペイン前衛詩
鳥井 克之	アジア	再論 中国語の複文について —新しい中国語教学文法の再構築を目指して—

【第9号】 (2005年 3月発行)

諸沢 巖	ヨーロッパ	W・ラーベと環境問題
鳥井 克之	アジア	中国語の構文分析法
望月 通子	アジア	教師の専門能力開発をめぐる研究
A. Stephen Gibbs	英語	Successful Entrants to Kansai University and Competence in Contextually-appropriate Expression of Future Matters in English: EFL Entrance Examination Design and Japanese Secondary-level EFL Curricula
Gerd L r, 中島 巖 (訳)	ヨーロッパ	ワーキング・メモリーの機能と言語の関わり

【第10号】 2005年10月発行

高橋 寿夫	英語	異文化理解：言語からのアプローチ －「よろしく」に内包される曖昧さと依存性－
名部井 敏代	英語	リキャスト-その特徴と第二言語教育における役割-
Lee Haruki	英語	Reading as Decoding: Focusing on the Indicial Narrative
杉谷眞佐子・高橋秀彰・伊東啓太郎	ヨーロッパ	EUにおける「多言語・多文化」主義－複数言語教育の観点から言語と文化の統合教育の可能性をさぐる－
鼓 宗	ヨーロッパ	前衛詩人たちの論争－ビセント・ウイドブロ『水鏡』発行年の真偽をめぐって－
石原 敏子	英語	HolesとWhirligigを読む：「味わって読むコース」教育実践レポート

【第11号】 2006年 3月発行

玄 幸子	アジア	現代中国語文法化理論による近世語の態(Voice)の分析
望月 通子・河合 忠仁		外国語教員養成制度と専門能力開発に関する基礎研究－米国・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・シンガポール・マレーシア・韓国を中心として
刘新芝	アジア	中国新時代的来 留学生教育－以北京大学 例
A. Stephen Gibbs	英語	An Effective Way of Teaching the Expression of Future Matters in English; Part Two: Objective versus Rhetorical Uses of Simple Future Tenses
Lee Haruki	英語	The Two Principles of Representation: Paradigm and Syntagm
名部井 敏代・Roger Palmer・Chris Campbell	英語	Teacher Training Workshop-Exploring Ways for Japanese Teachers of English to Make Their Classes More Communicative

【第12号】 2006年 11月発行

Chris CAMPBELL・菊地敦子・Roger PALMER	英語	Bridging the Gap Between CLT Theory and Practice in a Japanese Junior High School
A. Stephen GIBBS	英語	An Effective Way of Teaching the Expression of Future Matters in English; Part Two: Objective versus Rhetorical Uses of Simple Future Tenses: Chapters Two and Three
八 島 智 子	英語	感情スクリプトと第2言語コミュニケーション
LEE Haruki	英語	A Structural Study of Narrative: Two Types of Narrative Transformations
杉谷 眞佐子	ヨーロッパ	K.R. バウシュ/B. ヘルビヒ=ロイター (E. オッテン/R. ショアマン協力) 複数外国語教育を統合的に推進するための考察－学校教育における外国語学習促進へ向けての14テーゼ－ドイツ常設文部大臣会議編『外国語教育の基本構想に関する検討』(補足資料)

【第13号】2007年 3月発行

齋藤 榮二	英語	生きるということ
A. Stephen GIBBS	英語	An Effective Way of Teaching the Expression of Future Matters in English; Part Two: Objective versus Rhetorical Uses of Simple Future Tenses: Chapters Four and Five
LEE Haruki	英語	Reconsidering the Unreliable Narrator: A Narratological Perspective
Detlev SCHAUWECKER	ヨーロッパ	Hanka Schjelderup Petzold(1862-1937) —Eine norwegische Musikerin im Japan der Taisho-Jahre—
平嶋 里珂	ヨーロッパ	コミュニケーション能力を養成するための パターンプラクティス

【第14号】2007年10月発行

玄 幸 子	アジア	李氏朝鮮期中国語会話テキスト 『朴通事』に見られる存在文について
高 明 均・金 昶 寧	アジア	言語遊戯を活用した教授学習の方案 —外国語として朝鮮語教育を中心に—
望 月 通 子	アジア	日本人大学生のEFL学習者コーパスに見られる MAKEの使用
A. Stephen Gibbs	英語	An Effective Way of Teaching the Expression of Future Matters in English; Part Two: Objective versus Rhetorical Uses of Simple Future Tenses: Chapters Six ~ Nine
菊 地 歌 子・川 勝 直 子	ヨーロッパ	フランス語教師のための研修の必要性

【第15号】2008年3月発行

石 原 敏 子	英語	「悪者おおかみ」の書き換え五題： 『さんびきのこぶた』変装絵本に見る現代的効果
菊 地 敦 子	英語	Conceptual Metaphors Underlying the Semantic Extensions of the English Demonstratives THIS and THAT
Scott Johnson	英語	English in Context: A Teaching Note
柏 木 貴 久 子	ヨーロッパ	外国語教育と異文化理解 —ドイツ語初級授業における簡単で複雑な問い „Woher kommen Sie?“をめぐる考察
高 橋 秀 彰	ヨーロッパ	ドイツ語圏スイスにおける言語状況： 標準変種の規範化と方言の拡大
沈 国 威	アジア	中国語教育における習得語彙の広さと深さ

【第16号】2008年10月発行

望月通子	アジア	複合環境における第二言語不安
A. S. ギブズ	英語	The Liaison of English Part One
山本英一	英語	言語研究の底を流れる思想を考える —推論様式を手掛かりとして—
李 春喜	英語	ある問題 ヘンリー・ジェイムズ 著

【第17号】2009年3月発行

奥田隆一	英語	時代の変化に対応する和英辞典を求めて ーアメリカ英語における携帯電話の英語表現ー
A. Stephen Gibbs	英語	The Liaison of English Part Two
八島智子、キンバリー・ノエルズ、静哲人、 竹内理、山根繁、吉澤清美	英語	The Interplay of Classroom Anxiety, Intrinsic Motivation, and Gender in the Japanese EFL Context
吉澤清美	英語	To what extent can self-assessment of language skills predict language proficiency of EFL learners in school context in Japan?
高橋秀彰	英語	標準ドイツ語の収束と分散 ー標準変種の確立と脱標準化に関する考察ー
鼓宗	ヨーロッパ	『水鏡』における創造主義の萌芽
山崎直樹	アジア	多言語平行コーパスのための 「言語学のおもしろい100の文」
李春喜	英語	あやまちの悲劇 ヘンリー・ジェイムズ 著

〈 自己点検・評価委員会活動 〉

〔活動記録〕

【平成 17 年度】

- 第 1 回 平成 17 年 4 月 13 日 全学自己点検・評価委員会事項について
- 第 2 回 平成 17 年 5 月 11 日 全学自己点検・評価委員会事項について
- 第 3 回 平成 17 年 5 月 18 日 全学自己点検・評価委員会事項について
- 第 4 回 平成 17 年 6 月 8 日 全学自己点検・評価委員会事項について
- 第 5 回 平成 17 年 6 月 29 日 全学自己点検・評価委員会事項について
- 第 6 回 平成 17 年 7 月 6 日 全学自己点検・評価委員会事項について
- 第 7 回 平成 17 年 7 月 19 日 全学自己点検・評価委員会事項について
- 第 8 回 平成 17 年 11 月 16 日 全学自己点検・評価委員会事項について

【平成 18 年度】

- 第 1 回 平成 19 年 3 月 18 日 全学自己点検・評価委員会事項について

【平成 19 年度】

- 第 1 回 平成 19 年 8 月 1 日 全学自己点検・評価委員会事項について
- 第 2 回 平成 19 年 9 月 19 日 全学自己点検・評価委員会事項について

【平成 20 年度】

- 第 1 回 平成 21 年 1 月 28 日 全学自己点検・評価委員会事項について

[委員会規程]

関西大学外国語教育研究機構自己点検・評価委員会規程

制定 平成12年2月25日

(設置)

第1条 関西大学外国語教育研究機構（以下「機構」という。）に、機構の教育研究水準の向上を図るため、関西大学外国語教育研究機構自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会は、機構の教育研究に関する活動状況並びに制度、組織、施設・設備の現状及びその運営状況について、自己点検・評価（第三者評価のための自己点検・評価を含む。）を行い、その結果を公表するため、これを外国語教育研究機構長（以下「機構長」という。）に報告する。

2 委員会は、その任務を遂行するに当たって、個人の権利を十分に尊重するものとする。

(構成)

第3条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 機構長代理
- (2) 教授会において選任された専任教育職員 4名
- (3) 機構長が指名した専任教育職員 若干名
- (4) 事務長

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、委員会を代表し、その業務を統括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは代行する。

(委員長及び副委員長の選任)

第5条 委員長は、第3条第1号から第3号までに規定する委員のうちから選出する。

2 副委員長は、第3条第1号から第3号までに規定する委員のうちから委員長が指名する。

(委員の任期)

第6条 第3条第2号及び第3号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、連続して2期を超えて再任することはできない。

2 前項の委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第7条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、出席委員の過半数の同意をもって決する。

3 委員会は、必要に応じて、委員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

(職掌事項)

第8条 委員会は、第2条第1項に規定する任務を遂行するために、次の事項を行う。

(1) 自己点検・評価項目の設定及び変更

(2) 資料の収集及び整理並びに分析

(3) 自己点検・評価及び報告書の作成

(4) その他自己点検・評価に必要な事項

2 委員会は、前項第2号の資料の収集について、機構の教育職員、事務職員及び学生の協力を得て行う。

(結果の報告及び公表)

第9条 委員会は、隔年に、自己点検・評価の結果について報告書を作成し、機構長に提出する。

2 前項の報告書は、機構長が意見を付し、教授会の議を経たのち公表する。

(事務)

第10条 委員会の事務は、外国語教育研究機構事務室が行う。

(委任)

第11条 第8条第1項第1号に規定する自己点検・評価項目の設定及び変更については、委員会及び教授会の議を経るものとする。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、委員会及び教授会の議を経て決定する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程(改正)は、平成15年4月1日から施行する。

[外国語教育研究機構自己点検・評価委員会名簿]

(平成 22 年 1 月 13 日現在)

委員長	教 授	竹内 理
	教 授	西川 和男
	教 授	平田 渡
	教 授	山崎 直樹
	准教授	名部井敏代
	政外事務グループ長	松川 健志